

2020年10月23日

2019年度（令和元年度）自己評価・学校関係者評価 報告書

大阪電気通信大学高等学校
校長 福島 淳行

学校教育法施行規則に示された学校評価を実施するために、自己点検評価委員会ならびに学校関係者評価委員会を開催しました。2019年度「学校内部評価アンケート」、「学校評価 生徒アンケート」、「学校評価 保護者アンケート」の結果を参考資料とし、本校の主な取り組みの成果と課題等について検討しました。その結果をご報告いたします。

本校の由来

本学園（学校法人 大阪電気通信大学）は元来、無線通信士を養成する学校として誕生しました。現在、大学（寝屋川市、四條畷市）と高等学校（守口市）を擁しております。2019年度の高等学校では、普通科（進学コース、健康スポーツコース）、電子工業科（理数コース、電子情報コース、医療電子コース、デジタルゲーム開発コース）の2学科6コースを設置しております。本高等学校から大阪電気通信大学への進学は大変有利となっており、他大学を含めた大学進学率は80%程度となっています。

教育目標として、

- 一. すべての生徒に確かな知識を与えよう
- 一. 人間の生き方を教える教育をしよう
- 一. 心身ともに健康な生徒を育てよう

を掲げ日頃の教育活動に取り組んでいます。

I. 学習意欲・成果向上を目指す取り組み

大学への進学率向上80%以上を目指します。

本校生徒の学力向上のために、

1. 高・大連携授業に取り組めます。
2. 進学希望者に対して特別進学ゼミ（無料・有料）に取り組めます。
3. 大学進学実績80%以上を目指します。
4. 学力下位層に対しきめ細かな指導を行います。
5. 資格試験取得の取り組みを行います。

令和元年度も、学習の動機付け及び進路指導の一環として、大阪電気通信大学、追手門学院大学等との高・大連携授業を展開しました。

学力下位層の生徒に対するフォローとして、従前にはない学年・教科の連携・指導を強化し、様々な創意工夫をこらして、生徒ひとりひとりをサポートしました。

【実施内容】

1. 高・大連携授業を、今後とも併設大学ならびに他大学と連携を強化し推進します。
2. 大阪電気通信大学への進学率向上（40%以上）を目指します。
3. 今後も特別進学講座を、進学実績向上を目指して推進します。
4. 他大学への一定数の合格を目指します。
5. 学力下位層の生徒のフォローとして今後とも全力でサポートします。
6. 資格試験取得の取り組みを強化します。
7. 自習室を開設します。

【取り組みの成果】

1. 高大連携授業を併設大学並びに他大学と例年通り実施しました。
2. 大阪電気通信大学への進学率は53%となり目標を達成することができました。
3. 4年制大学への進学率は、前年度と比較する85%（昨年度79%）になり6%増加しました。
4. 26.5%の生徒が他大学に合格しました。国立大1名、関関同立5名、産近甲龍10名、摂神追桃21名
5. e-learningを活用しました。入学前の生徒の利用を促し、基礎学力の向上を目指しました。スローラーナーの生徒をサポートしました。早朝、昼休み、放課後を活用して図書室等を活用して指導しました。
6. 資格試験の取得に取り組みました。大阪電気通信大学との高大連携を強化し電気工事士の資格取得のために相互に協力しました。
7. 自習室は入学生徒増のため予備教室の数の関係でやむを得ず閉鎖しました。しかしながら、定期試験前には大阪電気通信大学と学生の応援を得て試験前に学習会を実施しました。

<自己評価>

[・ ・ ・ ×]

【今後の取り組み】

1. 高・大連携授業を、今後とも併設大学ならびに他大学と連携を強化し推進します。特に併設大学との連携をさらに強化します。
2. 大阪電気通信大学への進学率向上（50%以上）を目指します。
3. 今後も特別進学講座、進学実績向上を目指して推進します。
4. 他大学への一定数の合格を目指します。
5. ICT 推進のために基幹工事を実施します。e-learning を継続して導入し基礎学力の向上を継続して図ります。
6. 資格試験取得の取り組みを強化します。
7. 自宅学習をサポートしていきます。

Ⅱ. 生き方を教え、健康な生徒を育てる取り組み

1. 社会性の向上のため時間を守る（遅刻をしない）、電車・自転車でのマナー向上、薬物乱用防止講習会等の講習会を実施します。

2. いじめ防止に取り組みます。

3. 教職員努力目標を行動の指針として教育活動に取り組みます。

人としての社会的マナーを向上させる指導に努め、「良いこと」、「悪いこと」の分別の備わった生徒育成を図りました。具体的には、挨拶励行、時間厳守及び登下校中における電車内でのマナー、交通マナー向上を図る啓発活動を行いました。

免許取得者（自動車教習所）ならびに自転車通学者（本校）を対象として近隣の自動車教習所（守口自動車教習所）と共同で、交通安全講習会を実施しました。

心身を蝕む薬物乱用について、その防止講習会を2019年度も継続して実施しました。

いじめ防止等に対する基本的な取り組み指針をもとにいじめ防止に取り組みました。いじめ事象の発生・深刻化を防ぐとともに、生徒自身の、いじめを許さない人間らしい生き方を育てていく本校の教育姿勢を明確にし、生徒指導に取り組みました。

WG「心身健全育成検討委員会」の提案を踏まえ、平成26年度から取り組んでいる次の教職員の努力目標を2019年度も引き続き掲げて生徒に臨みました。

- 一. 生徒に対して丁寧なことばで接しよう。
- 一. 生徒に対して率先して挨拶や声かけをしよう。
- 一. 生徒に対しては迅速な対応につとめよう。
- 一. 身だしなみについては生徒の垂範となるべく努力しよう。

【実施内容】

1. 今年もマナーの向上を目指し、特に時間厳守の指導をしました。
2. 今年も引き続き薬物乱用防止の指導を継続しました。
3. 今年もいじめ防止対策に学校全体で取り組みました。
4. 今年も自転車通学者対象に交通安全講習会を校内で実施しました。
5. 今年も免許取得者に対し近隣の自動車教習所にお世話になり、交通安全講習会を実施しました。
6. 今年も携帯電話活用マナー講座を実施しました。

【取り組みの成果】

1. 社会的マナーは向上し、特に挨拶や言葉遣いなどは良くなっています。
2. 薬物乱用防止講習会を開催結果、生徒たちの意識が高まりました。
3. いじめ防止対策に学校全体で取り組み、クラスアンケートを実施しました。
4. 教職員努力目標4か条を遵守して、生徒との関係は良好でした。
5. 自転車通学者対象に交通安全講習会を近隣の自動車教習所の協力を得て校内で実施しました。
6. 免許取得者に対し近隣の自動車教習所にお世話になり、交通安全講習会を実施しました。
7. 携帯電話活用マナー講座を実施しました。
8. 時間を守ることができるようになり遅刻の件数が500件以上減少しました。

<自己評価>

[◎ ・ ◯ ・ △ ・ ×]

【今後の取り組み】

1. 今後ともマナーの向上を目指し、特に時間厳守の指導を強化します。
2. 今後とも引き続き薬物乱用防止の指導を継続します。
3. 今後ともいじめ防止対策に学校全体で取り組みます。
4. 今後とも教職員努力目標4か条を遵守して、生徒と接します。
5. 自転車通学者対象に交通安全講習会を校内で実施します。
6. 免許取得者に対し近隣の自動車教習所にお世話になり、交通安全講習会を実施します。
7. 携帯電話活用マナー講座を実施します。

Ⅲ. 教職員自己評価アンケート結果

教職員を対象に「よくあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」で回答するアンケートを実施しました。

「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が 80%以上を評価A、60%～80%未満を評価B、40%～60%未満を評価C、40%未満を評価D としました。

前年度と比較すると	評価Aが	23項目から	17項目	に減少
	評価Bが	11項目から	20項目	に増加
	評価Cが	9項目から	6項目	に減少
	評価Dが	7項目から	7項目	で変化なし となりました。

評価が上昇した項目は (%は「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計)

地域社会や中学校からの評価が上がっている。88.4%

遅刻指導、登下校指導の成果があった。86.0%

教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。
78.6%

文化祭などの学校行事は活発だ。74.4%

生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。62.8

効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。60.5%

健康教育、食育などにも配慮している。41.9%

教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。41.9%

でした。

評価が下降した項目は (％は「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計)

- 地域や地域住民との交流ができている。30.2%
- 教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している。39.5%
- 評議員会、理事会の役割や機能について理解している。58.1%
- 事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。65.1%
- 情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。67.4%
- 学力不振者に対する効果的な授業体制ができている。67.4%
- 在校生、卒業生は学校に誇りをもっている。69.8%
- 危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。69.8%
- 教育3目標は教職員、生徒によく浸透している。74.4%
- 保護者などへ授業を公開している。76.7%

でした。

「地域社会や中学校からの評価が上がっている。」(88.4%)と感じている教職員が多い一方で、「地域や地域住民との交流ができている。」(30.2%)と感じている教職員が少ないことがうかがえます。「地域あつての学校」「学校あつての地域」との考え方から、今後はより地域との連携を深めてまいります。

「Aよくあてはまる」「Bやや当てはまる」の合計が高い(90%以上)回答項目として

- 「年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。」100.0%
- 「教育課程は学習指導要領に沿っている。」97.7%
- 「部活動は活発だ。」97.7%
- 「生徒指導において、家庭との連携ができている。」95.3%
- 「電通大見学、高大連携授業、体験講座、入試説明会など、大学との意思疎通ができている。」95.3%
- 「学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。」93.0%
- 「生徒指導は学校の方針に従っている。」93.0%
- 「カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。」93.0%
- 「各種検定、職業資格取得の指導ができている。」90.7%

がありました。

「Aよくあてはまる」「Bやや当てはまる」の合計が低い(40%未満)回答項目として

- 「ボランティア活動は活発だ。」23.3%
- 「初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。」25.6%
- 「研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。」25.6%
- 「教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。」27.9%
- 「地域や地域住民との交流ができている。」30.2%
- 「ゴミ、リサイクル、省エネなど、身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。」32.6%
- 「教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している。」39.5%

がありました。

以上の結果から「ボランティア活動や環境問題等に対する生徒の意識を高める」「地域社会との交流を推進する」「研修会等を充実させ、校内で課題を共有する」などの課題に取り組んでまいります。

V. 卒業生徒・保護者に対するアンケート結果

本校のWG「満足度調査委員会」の提案に基づき、2020年3月卒業生及び保護者を対象とした

「本校評価アンケート」を実施しました。卒業生は289名（普通科150名，電子工業科139名）のうち生徒の回答は285名【99.0%】，保護者の回答は218名【75.0%】です。

この調査は，本校の教育方針・活動（授業・補習・クラブ活動・行事・教職員対応・教育設備・施設等）に関する40項目（保護者27項目）についての満足度を問うものです。

【実態】

[生徒]

- (1) 満足度 70%以上
 - ・授業は充実していた ・クラスは居心地が良かった
 - ・教員は様々な相談に丁寧に応じてくれた ・進路指導は充実していた
 - ・事務職員は親切に対応してくれた
- (2) 満足度 60%未満
 - ・制服は着やすく，デザインも優れていた
 - ・電通高校生としての誇りを持つことができた
 - ・朝学，朝読の取り組みは適切であった ・校則は適切であった
 - ・生徒会活動は活発であった ・施設は充実していた

[保護者]

- (1) 満足度 70%以上
 - ・差別やいじめがなく，生徒を大切にしている ・学力が向上した
 - ・校則を守っていた ・情報が有効に発信されていた
 - ・教員の対応は適切であった ・制服は満足であった
 - ・事務職員は親切に対応してくれた ・進路指導は充実していた
- (2) 満足度 60%未満
 - ・成績不振者への学習指導は適切であった ・クラブ活動は活発であった
 - ・施設は充実していた

【相関】

- (1) 生徒・保護者；満足度 70%以上
 - ・授業は充実していた ⇔ 学力が向上した
 - ・教員は様々な相談に丁寧に応じてくれた ⇔ 教員の対応は適切であった
 - ・進路指導は充実していた
 - ・事務職員は親切に対応してくれた
- (2) 生徒・保護者；満足度 60%未満
 - ・朝学，朝読の取り組みは適切であった ⇔ 成績不振者への学習指導は適切であった

(3) 生徒 70%以上, 保護者 60%未満

- ・教員は様々な相談に丁寧に応じてくれた ⇔ お子さんの悩み事を親身になって相談できる教員がいた (65%未満)

(4) 生徒 60%未満, 保護者 70%以上

- ・制服は着やすく, デザインも優れていた ⇔ 制服は満足であった

IV. 学校関係者評価委員会

平成 27 年度から保護者・同窓会・地域住民を構成員に加えた「学校関係者評価委員会」を発足しました。本校の評価及び保護者・地域住民との連携に係る審議・評価が行われました。この評価は、教員の「自己評価」と併せ、本校の HP にて公表しました。

教員による自己評価アンケート

1. 授業参観などの機会が不足している。
2. 情報の発信に伴う責任など情報のモラルの教育に十分取り組めていない。
3. 地域との交流が不足している。
4. 教員間、教科間の相互連携がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。
5. 遅刻指導、登下校指導の成果が上がった。

生徒による学校評価アンケート

1. 電通高生として誇りを持っていない生徒が多い。
2. 学校施設全般に満足していない生徒が多い。
3. 生徒会活動やクラブ活動が全般的に活発でない。
4. 授業全般への満足度は高かった。
5. クラスの居心地が良かった。

保護者による学校評価アンケート

1. クラブ活動が全般的に活発でない。
2. 学校施設・設備が充実していない。
3. 電通高に入学させて良かった。
4. 事務職員は丁寧に対応してくれた。

5. 教員の保護者への対応は適切であった。

意見交換

- A. 挨拶をしっかりしてくれるので大変気持ち良く、電通生を見かけたら、積極的に声かけをしています。昔の生徒さんと比べるとずいぶんおとなしくなった。ゴミ拾いをしてくれている姿もとても印象がよいです。
- B. 保護者アンケートで、「電通高校へ入学させて良かった」項目の評価が高く、良い学校であるという印象です。授業も通常通り行われ、修学旅行にも行けるのは保護者として嬉しいです。
- C. 学校行事にあわせた地域住民との交流も、今以上に考えて欲しい。
- D. 今までに比べ、学校内トラブルは大きく減っている。携帯電話の扱いに問題があり、指導に困っている。近隣にも迷惑をかけることでもあり、マナー教育にさらに力を入れていきたい。

【実施内容】

- 1. 教員による自己評価アンケートを実施しました。
(内容は重点実施目標及びその取り組みと成果の50項目)
- 2. 卒業生・保護者による本校評価アンケートを実施しました。
(卒業生40項目・保護者27項目)
- 3. 学校関係者評価委員会開催しました。
(保護者、同窓会、地域住民で本校の評価)
- 4. 本校ホームページに公表しました。(上記1.2.3.の内容)

【取り組みの成果】

学校関係者評価委員会を開催し、保護者代表・同窓会代表・地域住民代表の方々の意見や評価を頂きました。

<自己評価>

[○ ・ □ ・ △ ・ ×]

【今後の取り組み】

1. 今後とも外部の方々との連携や交流を深めて評価や意見を頂き、今後の学校運営に大いに役立てたいと思います。又、学校評価等で評価の低い回答の項目に対しては改善策を検討し、全教職員による実践が不可欠です。それぞれの項目に対して全力で取り組みます。
2. 教職員アンケートのなかで特に評価の低い、授業参観機会の不足の項目については、授業参観の実施を検討します。

資料1 2019年度3年生及び保護者アンケート集計結果.pdf

資料2 2019年度教職員自己評価アンケート集計結果.pdf